

（午後4時25分 再開）

○議長（上田順康君）休憩前に引き続き会議を開きます。

この際、議長より申し上げます。本日の会議時間は議事の都合により、あらかじめこれを延長します。

日程に従い、一般質問を行います。

順番8、11番 辻本君。

〔11番（辻本 勉君）登壇〕

○11番（辻本 勉君）ただ今、議長にお許しをいただきましたので、一般質問を行います。2点行います。

まず、本市の公営住宅についてであります。本日の冒頭で1番議員がされましたので、私のほうもできるだけ簡潔にしたいと思いますし、答弁のほうも簡潔にお願いしたいと思います。

本市の公営住宅でありますけれども、公営住宅法は、私の生まれた年でありますけれども、昭和26年、1951年に施行されました。そのときにちょうど橋本市古佐田四丁目の井出の下団地が建設をされました。ちなみに旧高野口町では、小田の災害住宅が昭和25年に建設をされておるんですけども、実質的な公営住宅というのは、その26年の井出の下団地から始まりました。特に昭和31年の東家のあたご山、33年の野の城之内、35年からの下兵庫の住宅、そして39年からの真土住宅、48年からの原田住宅という形で、旧橋本市のほうはそういう形で建設をされました。旧高野口町につきましては、39年の応其団地から始まりまして、42年の西之島団地、46年からの名古屋団地、同じく46年からの東明団地という形の中で、30年代、40年代に多くの公営住宅が建設をされました。

そんな中で、午前中の答弁でありましたけれども、災害住宅、改良住宅を含めまして合計928戸の建設がなされたわけでありまして。そんな中で、とりわけ昭和50年、1975年以前の建築の住宅につきましては、木造ないし簡易平屋建てということで特に老朽化が著しく、そのため、防災面からの問題、また生活の問題及び周辺の住宅環境とも比較しての美観上の問題、いろいろな悪い状況があるわけでありまして、今の状態のままで放置しておくことはできないのではないかと考えてます。大変厳しい市の財政状況を鑑みて、基本的には長期計画を立てていかなくちやならん。抜本的な対策を講じなくてはならんと考えております。

よって以下の点についてお尋ねいたします。

公営住宅事業の基本的な考え方及びこれからの計画についてお尋ねしたい。建て替え・改築・修繕・取り壊し等も含めましてお尋ねをしたいと思います。

二つ目に、午前中は滞納の問題もありましたが、年間の家賃の収入総額と比較しまして、維持管理費、修理費とか人件費も含めまして、その総額をお尋ねしたい。収支のバランスについてお尋ねしたいと、このように思います。

三つ目ですけれども、政策空き家があるということなんですが、政策空き家の数は午前中に聞きましたけれども、その実態というんですか、どこにどの場所にどれだけの政策空き家があるんかということと、その管理についてどのようにされておるんかということについてお尋ねしたいと思います。

続きまして、二つ目であります。地方債、俗にいう秋祭りなんです。それと先ほども市長のほうからありましたとおり、やっちょ

ん祭に大変感動したということなのですが、紀の国やっちゃん祭の支援についてお尋ねしたいと思います。

近年、岸和田のだんじり祭りの影響もありまして、本市においてもだんじりの買いかえとか新規購入が大変活発になりました。私の地区でも平成3年ぐらいに新規で購入をいたしました。妻地区も同じ年に購入をされましたし、つい最近では清水のほうも購入されましたし、いろんなところ、橋谷もあります。市協のほうも買いかえたということで大変活発になってきています。一番新しいところだと御幸辻が購入されると。私のところの原田につきましても来年度から新しいだんじりを引いていくということになっています。

そんな中で、宮入とか市内・地区内も含めまして巡行をしておりますし、橋本駅前でのパレードについては、ここ何年かはずっと続いておるわけでありまして、ここ数年は大変たくさんのだんじりが寄ってきまして、大いに盛り上がっております。橋本駅前のほんまに大きなイベントの一つというんですか、紀の川祭のときよりも橋本駅前がにぎやかかなという気もいたしますし、本当に市民みんなの秋の楽しみになっておるのではないかなと。このだんじり、秋祭りにつきましては、宗教行事という形の中で、若干市としてかわっていくのはどうかなという意見もあるかと思うんですけれども、そういう宗教行事というものではなしに、本当に市民の秋のだんじりの祭りという観点からお考えいただきまして、地域の人たちのコミュニケーション、または地域間同士のコミュニケーションづくりとして大きな役割を果たしておるのではないかなと思います。そして、少子化の問題もありましたけれども、とりわけ若者にとっては年に一度の楽しみと言っても過言ではないかなと思います。若者の定着、地域の定住

化という観点からも大変意義があるのではないかなと思います。

そして、紀の国やっちゃん祭も、これも大きなイベントの一つであります。過日、私も行かせていただきまして、見物させてもらったんですけども、第10回の記念大会のファイナルが橋本駅前で開催をされました。土日ということで2日にわたって、ほかでも松源の店頭とか、松源橋本店とか妙寺店、伏原店とかもありますし、九度山の商店街へも行かれたようですし、JRの高野口駅前とか南海の林間田園都市駅前で開催をされまして、多くの市民の方が見物をされたと思います。本年につきましては23チームが参加をいたしまして、それぞれの場所で大勢の観衆が来られまして、大変盛り上がったということで聞いております。

この二つのイベントにつきましては、駅前にとっては大きな行事になっています。駅前再開発と中心市街地開発等が市の財政状況の中でストップをいたしまして、大変駅前が暗いというか、本当に落ち込んでおる状況でありますけれども、この大きな二つのイベントによって、駅前が少しでも活性化をされておるんじゃないかなというように思いますし、本当に駅前活性化にとっても欠かせないものでありますし、そんな中でみんなの力でやっていってる祭りというんですか、行政に頼らない自分たちで取り組んでおる祭り、やっちゃんもそうですし、だんじりの駅前パレードにつきましても、みんなが力を合わせてやっています。橋本市のだんじり協議会とか、やっちゃんの場合は、紀の国やっちゃん振興会というのがありますし、駅前には駅前一番計画というグループもあります。その皆さんの自主的な運営・働きについては、敬意を表したいと思います。

そんな中で、その自主的な活動を尊重しな

がら、行政としてどういうふうにかかわって
いくんかということを考えていただきたいと。
橋本市は6月にはHERA-1グランプリが
あります。これはもう何回かやられてますし、
大きな補助金も出してあります。夏には紀の
川祭もありますし、カップ祭も同様にやられ
てあります。そんな中で市としてどのよう
にかかわっていただきたいのかなということで、
ただ単に補助金を出してほしいというんでは
なしに、市のできることに、財政的な援助だ
けではなしに、いろんなPR、市として橋本
市にはこういうものがあるんやということ
を他の市町村に知らせていく、橋本市のよ
さを知らせていくということは、大変大事
ではなからうかと思っておりますので、PR
等のいろんな面で本市の活性化のために
努めるということで、援助・支援をして
いくべきではなからうかと思っております
ので、市としての考え方をお尋ねしたい
と思っております。

1回目の質問を終わります。

○議長（上田順康君）11番 辻本君の一般
質問に対する答弁を求めます。

市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）辻本議員の質問にお
答えをいたします。

収穫の秋を間近にして、市内各所で秋祭
りの準備大わらわでございます。私の地元
の市協も、笛や太鼓の練習に毎晩励んで
おられるわけですが、議員おっしゃるよ
うに、近年、地域でだんじりの新調やだ
んじり納庫の新築がなされていること
を承知いたしてございますが、市として
地域の活性化を図るために、だんじり
などの新調を行う際、宝くじ助成制度
の活用をいただくべく支援をしてい
るところであります。

一方、先日の9月2日、3日に行われた
第10回紀の国やっちゃん祭は、伊都・
橋本地域の

多くのボランティアの方々により支えら
れ、地域を愛する心をやっちゃん踊り
により表現するやっちゃん祭が盛大に
行われました。この祭りは、私は動く
文化としても大変意義が多いとらえて
おるわけですが、ちょうど10年目
でございます、元気祭り、踊る人も
元気、見る人も元気になるという大
変楽しいゆかいな立派な内容の濃
い祭りでございます。

さて、その紀の川やっちゃん祭に市長
賞も僭越ながらお渡しさせていただ
いたところであります。また、橋本
市観光協会のホームページのイベ
ント情報を、9月では本年9月2
日、3日の第10回紀の国やっ
ちゃん祭の案内をしてございま
す。また、イベント情報10月
は、旧橋本市での各神社を中心
とした秋祭りや旧高野口町での
駅前大通り歩行者天国とあ
わせて実施される高野口町秋
祭りの案内をしております。平
成18年度予算で、新市の観
光イベント案内冊子を作成す
る予定であり、これらの祭り
のPRに努めてまいりたいと考
えております。

議員言われるとおり、祭りは住民の自
主的運営・活動であり、住民による
地域の郷土意識をより感じてもら
える場として、橋本市で行われ
る祭りが一層盛り上がりを見
せるよう、市といたしましても
側面より支援してまいりたい
と思っております。ご理解の
ほどをお願い申し上げます。

なお、残余の件につきましては、担
当参与よりお答えをいたします。

○議長（上田順康君）建設部長。

〔建設部長（坂本信良君）登壇〕

○建設部長（坂本信良君）辻本議員
のご質問にお答えいたします。

1点目のご質問につきましては、住
宅ストックの総合的な活用を図
るため、住宅ストック総合活用
計画を旧橋本市においては平成
14

年3月に、旧高野口町においては平成13年3月にそれぞれ作成しております。今年3月の合併に伴い、新市長期総合計画を作成する必要がありますが、必然的に市営住宅ストック総合活用計画の見直しも必要となり、計画作成の中で建て替え・個別改善・維持保全・用途廃止等の活用手法を検討しながら進めてまいります。

2点目のご質問につきましては、年間の家賃収入総額が、調定額1億6,059万2,400円、収入済額1億340万2,330円であり、収納率64.39%となっております。維持管理費総額については、人件費も含め7,853万2,908円でございます。収支バランスにつきましては、家賃収入総額に対して維持管理総額は75.95%の費用を支出しております。

3点目のご質問につきましては、市内に9団地、40戸の政策空き家があります。内訳は、井出の下団地2戸、丸山公園団地2戸、胡麻生団地1戸、あたご団地5戸、城之内団地9戸、兵庫団地1戸、細川団地3戸、東明団地16戸、向島災害住宅1戸であります。

政策家賃の管理につきましては、市営住宅ストック活用計画作成の見直しを行うとともに、団地の住環境にも配慮した管理を行ってまいります。

○議長（上田順康君）11番 辻本君、再質問ありますか。

11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）今、答弁をいただいたんですけども、1番の公営住宅についてということで、1番の①の基本的な計画ということなんですが、市営住宅ストック総合活用計画の見直しを行うということなんですが、この辺は見通しというんですか、いつまでにその見直しをしていくんかというところについて、明確なご答弁をお願いしたいと思います。

○議長（上田順康君）建設部長。

○建設部長（坂本信良君）新市の長期総合計画の中で、人口フレームが確定しますと、それに伴いまして、今後の市営住宅の必要戸数が算出されることとなります。その戸数によりまして、全体的な市営住宅の建て替え等の計画を進めるわけでございますけれども、事業スケジュールにつきましては、新市の長期総合計画、今年発注してございますので、その概ねの方向性が決まった段階におきまして、ストック活用の作成見直し費用の補正計上をさせていただきながら作業にかかってまいりたいと。具体的には早くとも来年の後期ということになるかと思っております。

○議長（上田順康君）11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）長期計画がありまして、人口フレーム等を鑑みて必要戸数の算出等をしていながら住宅の活用計画を出していくということなんですが、ここで基本的に人口フレームはともかく、公営住宅事業というものが、今後も含めまして、本当に地方自治体がやるべき時代であるのかどうか。これは住宅が少ないということで、戦後人口が増えましたし、結構急激に増えておる中で住宅開発がまだされてないときに公営住宅法ができて、公営住宅がどんどんできてきたといういきさつがあるんですけども、今の時代に本当に公営住宅事業が必要であるのかどうかということも、人口フレームとは関係なしに、市として当然考えていくべきだと思うんですよ。そやから、縮小するなり払い下げをするなり公営住宅事業を廃止していくなり、いろんな部分で考えることはあろうかと思うんです。市民の自立という観点からいきましても、本当に公営住宅事業が地方自治体でやっていくべき事業であるのかどうかということも、長期計画とは別に考えていくべきではないのかなと。市の大きな長期計画の中で人口フレームが出

てきたから、必要戸数を算出してどうのこうのという問題でも僕はなかろうかと思うんです。その辺について建設部長のお考えをお願いいたします。

○議長（上田順康君）建設部長。

○建設部長（坂本信良君）お答えをさせていただきます。公営住宅の設置につきましては、公営住宅法の第1条にそれぞれの目的が記載されておるんですけれども、今、議員おただしの法律とは別に、市の将来的な公営住宅のあり方についてのことだと思っておりますけれども、市におきましても、住宅施策という意味合いで今後どうあるべきかというものについて、これは長期計画とも絡んでくるかと思っておりますけれども、長期総合計画での市の住宅施策のあり方というものが議論されて、それから市のストック活用の中で維持管理のあまり要らないもの、例えば耐火構造物でRCで建設されたようなもの、それは現在、維持保全という形の中で位置づけされておりますけれども、そういうもの以外、例えば耐用年数のたっております木造住宅だとか、簡易耐火平屋建て、2階建て等の耐用年数のたっている団地についてのあり方というのが議論されるべきであろうなど。そういう議論がされた中で、市の公営住宅が将来的にこうあるべきであろうというものが出てきますと、私どもとしましては、現下としましては、その方向性に沿った形での住宅施策が展開できるのではないかなというふうに思っております。

○議長（上田順康君）11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）ありがとうございます。その中で具体的な計画というのがまだということなんですが、これは後で32番議員だったと思うんですが、質問をされておるんですけれども、旧高野口町伏原1021の東明団地ですね。これは昭和46年から49年に建てられまして、現在105戸あるかと思うんですが、このこと

についてお尋ねをしたいと思いますが、旧高野口町のときに建て替え計画が出されておる。これは先ほど答弁ありました住宅ストック総合活用計画の高野口町版に記載されておるんかどうか、私のほうでは把握してないんですが、建て替えをされる予定だという話で進んでおったように聞いておりますし、実際建て替え用地の購入をされておると思うんです。そのことについて、合併をいたしましたし、この住宅ストック総合計画も、合併に伴いまして見直しをしていくんやということがありますので、旧市町で計画を立てられましたストック総合活用計画とは若干異なっておりますかと思うんですが、その件について基本的な考え方をお尋ねいたします。

○議長（上田順康君）建設部長。

○建設部長（坂本信良君）旧高野口町で作成されました住宅ストック総合活用計画の中では、東明団地につきましては、建て替え計画という位置づけがなされてございまして、その用地にかかりますところにおきましては、旧高野口町の土地開発公社において取得しているところでございます。これにつきましては、新市の開発公社のほうへ引き継ぎをなされているように聞いております。

それで、東明団地の建て替えの計画でございますけれども、現段階ではいつどういうふうに具体的に事業スケジュールを立てていくのかというものについては議論がなされておりません。したがって、先ほど来から説明させていただいておりますストック活用計画の中で事業スケジュールも含め、また財源の裏打ちも含めた中で、いつどのように建設されていくのかというものが定まってくるのではないかなというふうに思っております。

○議長（上田順康君）11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）そのことにつきましては、また後で32番議員がゆっくりされると思

いますので、その程度にとどめたいと思いますが、ただ単に建て替えをしていくんやというんじゃないしに、長期的な公営住宅事業というものにポイントを置いて、新しい新橋本市の住宅ストック総合活用計画をぜひとも早急に立ち上げていただきたい、つくっていただきたいと、このように考えておりますので、よろしく願いいたしたいと思います。

午前中の1番議員も言われておったんですけども、民間借り上げというんですか、民間アパートの状況がありまして、民間住宅の借り上げとかも当然考えていかななくてはならぬ時代に入っておるのかなという気もするんですが、行政の職員として、公営住宅の担当として、橋本市の民間アパートの状況というか、当然、市営住宅を、弊社では営業しとるわけでありまして、公営住宅の営業をしておれば、もう一方であります民間アパートの状況、その辺をどのように把握しておるのか。これは人口フレームの問題もありますけども、将来の住宅事情から考えていきましても、当然市営住宅の状況、公営住宅の状況はこうである、そしたら現在の橋本市の民間アパートの状況はどうであるという、その辺のデータ収集というのが当然すべきではなかろうかなと思うんですが、その辺についてお伺いしたいと思います。

○議長（上田順康君）建設部長。

○建設部長（坂本信良君）住宅ストック総合活用計画の中で、公営住宅、これにつきましては、現在の橋本市におきましては、勤労者住宅が学文路にございますね。それから、県の住宅を大きくは公営住宅という位置づけをしているんですけども、それに対しまして、民間の借家というんですか、アパートというんですか、そういうもの。それから給与住宅ということで3パターンの賃貸住宅、そういうものをストック活用計画の中で調査をして

ございます。その調査に基づきまして、将来あるべき姿というのも算出しているわけでございますけれども、平成12年度のデータを少しご説明申し上げますと、公共賃貸住宅が642戸、それから民間借家、これが1,918戸、それから給与住宅が184戸ということで、これは旧橋本市だけの数字でございます。それぞれのストック活用計画は別々につくっておりますので、それぞれでデータ収集して必要戸数というものを出してございます。それによりまして、先ほど数字だけでなくしてもう少し考えるべきじゃないかなというお話があったんですが、戸数の推計といたしまして、目標年次が平成23年度におきましては、現状から見た戸数が約29戸の不足ということでデータが出ておりますけれども、旧橋本市が作成されたストック活用計画につきましては、人口がまだ伸びている状況で作成してございます。これを作成した後、一月ぐらい後ですか、市の将来人口が見直しをされまして、5万数千人という形になったかと思うんですけども、ですから、このデータ自身は信憑性が少ないんですが、この計画の中ではそういう数字が出てございます。

以上でございます。

○議長（上田順康君）11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）古い資料があるようですけども、新しいデータがあるようでしたら、資料の提出をできたらお願いいたしたいと思うんです。なかったら結構でございます。その辺も含めて十分ご検討をお願いいたしたいと思います。

続いて2番目の年間の家賃収入総額と維持管理費総額の収支バランスでありますけども、現在のところ、収入総額のほうが上回っておるという感じですね。収支バランスはとれておることなんですけども、大変古くなってきておりますので、修理・修繕とか改修等を

やっていきますと、当然かなり費用がかかってこようかと思うんです。今回も補正予算で管理システムプログラムの修正が131万円ほどあるんですけども、修繕費ということで719万3,000円上がっております。こういう形の中で、年々その辺の金額が増えてこようかと思えますんで、収支的にも大変厳しい状況に陥ってこようかと考えますので、十分その辺を考えながら、家賃の滞納の問題もありましたので、それは午前中にやっておりますのであまり触れませんが、滞納をできるだけ少なくする中で収納率を上げていくという中で収支バランスをきちっととっていくということに努力をお願いしたいと思えます。これはそういうことでしたいと思えます。

三つ目の政策空き家の実態の件ですが、実際何カ所か挙げていただきました。井出の下なんていうのはたくさんあるんですけど、二つしか空き家はないということなんですけど、この辺が周りに入っている残された方から見ますと、大変環境が悪いといえますか、古くなってきてほうりっ放し、周りに草がぼうぼうに生えてきとる。ほな、その管理をどないするんなどいったら、あるところの団地に聞きますと、お年寄り、わしらがやっとなねやと。わしらが見かねてやっているという状況にあるんです。防災上も大変危険でありますし、その辺のほんまに政策空き家をどないしてするんなど。政策空き家やったら実際は入れないという状況の住宅だと思えます。

そしたら、午前中もありましたけども、何軒もあって、そのうちもう住んでいる人は少ないと。そしたら、政策空き家がたくさんあるのであれば、もうその部分は完全につぶしてしまうんやと。今現在、住んでおられる方に新しいとか少しましな住宅にかわっていただいて、そこはもう取り壊して更地にするんやということにすればすかっとします

し、今後の住宅の事業の展開からいうても縮小されていくという形になるかと思うんですよ。そういう対応をぜひとも早くやっていただくことがいいのかなと。周りの人もほんまに古い住宅に住んではる人は、結構年寄りの方が多いで、お年寄りの方だけしか住んでない。整理整頓は悪いし、あいたところがようけあって、もう周りの人がかなわんのやと。はっきり言ひまして、見た感じもかなり悪いですわ。市内の住宅事情というのは結構よくなってますね。新しい開発もされてますし、きれいな住宅がたくさん建っている中で、そういう政策空き家がある。小さいというか、井出の下なんか6軒になってますけども、二つ政策空き家があります。井出の下なんてはっきり言わせていただいて、もう人が住めるような状況にあるんかなと僕は思うんですよ。そやから、ほんまにそういう人は、まず優先的に新しいところにかわっていただいて、そこをきれいにしはったら、周りの住民も結構助かるというか、周り自体もかなりきれいになりますんで、そういうことに当面力を注いでいくというかな。

政策空き家はどこが一番多いのかな。城之内が多いんですね。あたご山は5、城之内が9、それとか下兵庫が案外少ないんですけど、真土はないんですか。政策空き家、真土はありますか。たしかあったと思うんですけども。前にはあったような気がします。いくつあるんかな。その辺のところをもっときちっと整理していったら、ほんまにその住宅で住んでおられる方にも政策空き家があるんやということを知らせてあげて、きちっと対応していくというか、そうでないと、わしが住んでいるこの団地の中で、その辺にぼろぼろ空き家があるやないかと。そうでしょう。それやのに募集かけたらそないあらへんでということになってきますし、周りの環境から考えても、

きちっと団地の住民にここのこの部屋については政策空き家でもう使用しませんよと。そして、維持管理については市が責任を持ってやりますよというような形の中で知らしめていくという方法もぜひともとっていただきたいし、本当に5軒6軒という小さい団地があるわけですよ。高野口、小田とか向島とか、災害住宅もこれは25年とか28年、30年に建てとるんですけども、向島1軒が空き家になってますけども、ほんまにこの3戸がずっと最初の災害のときかなんかに建てた人が住んではるかとかどうかということも僕もはっきり把握してないんですが、この辺についても当初の目的とは変わってきとるんで、どないしていくんかということもはっきりしていかなあかんと思うんですよ。

いっぺん政策空き家の件について、ご意見を聞きたいんですが、答弁をお願いいたします。

○議長（上田順康君）建設部長。

○建設部長（坂本信良君）住政策空き家の件ですが、先ほど真土の件、質問があったわけでございますけれども、真土は現在政策空き家はございません。

政策空き家に対する考え方でございますけれども、確かに議員おただしのように、非常に経費はかかりますけれども、集約できれば防災上、それから住宅管理上、経費が節減できます。また、周辺への環境の影響というんですか、その辺も少なくできるというのは十分承知しているわけでございますけれども、実際に当たったわけではございませんが、入居者の方が果たして引っ越ししていただけるかどうかという大きな問題、それからもう一点は、引っ越しをしていただく場合については、大きな問題といたしまして、借地借家法に抵触するわけでございますけれども、許可を受けて住宅を改修した場合については、一

定の補償をせないかんというものがひっかかってくるのではないかなというふうに思いません。したがって、全体をそのような整理をした場合に、果たして財源がどれくらい要るのかなという試算をした中で、それぞれの入居者の方々の意向も踏まえてやる必要があるのではないかなと。一度にできませんので、議員言われる井出の下の住宅がどうなのかなというような話もございますので、その点につきましては、今後検討いたしまして、財源が許されれば処分をしていきたいというふうに思っております。

○議長（上田順康君）11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）今、答弁いただきましたが、そういう気持ちで取り組んでいただけたらなと思うんです。きちっとそういうところについては、入居者と議論していくというか、話し合いをしていくというか、この辺どうないしょ、ここの住宅はもう古いしなというような話の中で、市として話を持ちかけていって前向きに取り組んでいくというか、そういう姿勢が大事かなと思うんです。それを十分今後お願いした中で、基本的に僕は本当に公営住宅事業については思い切った施策というか、思い切ったことをやらんとだめやという時代に来とるんかなと思いますんで、その辺のご努力をお願いしたいと思いますんで、よろしく願いしときます。

続きまして、2番目の地方祭と紀の国やっちゃん祭の支援であります。

市長から答弁いただきましたとおり、私も常に秋祭りとかやっちゃん祭は参加をさせていただいておるんですが、本当にすごい祭りというか盛り上がってきとるんですね。ここ数年、僕らが行かせてもうてからは10年以上になるんですけど、14年目ぐらいになるんですけど、毎年毎年活発になつとるというか、観衆も増えてますし、今年の秋祭りは駅前のバスの口

一タリーのところも狭くなったんで、もう使わんといかんと。だんじり協議会につきましても、旧の橋本町といいますか、市脇、東家、橋本、古佐田、原田、妻、北馬場とかずっと参加をしとるし、駅前につきましては、胡麻生、橋谷とか紀見、いろんな地域からも宵宮についてはたくさん来ていただいています。年々増えるばっかしなんですよ。

そんな中でだんじり協議会が中心となって、自主的な運営、これは各地域からいくらかずつお金を出して、これも年々会費は上がってきてます。昨日ぐらいから張りに回ってると思うんですけども、すばらしいポスターもつくってますし、大変経費、金がかかっていますので、各地域から会費を徴収しながらやっておるんですけども、金銭的な問題は別としましても、だんじり祭りの活発なところというのは、結構行政もいろんな面で協力をしておるというんですか、やっておるように思います。祭りの垂れ幕なんかでも、よその町に行ったらすごいんですよ。橋本市はだんじり協議会が中心となって、部分的なそれぞれの地域の中でのぼりを上げたり垂れ幕をやってますけど、全市的なものというのはいないんですね。そやから、もっとだんじり祭りというPRをぜひとも市民みんなに盛り上げてもらいたいという意味もありますので、もう少し観光協会だけではなしに、市内で盛り上がるようなそういう対策というか協力というか、支援をぜひともお願いいたしたいなと思うんです。

やっちゃんもそうですし、やっちゃんにつきましては市長賞ということで出ておるみたいですが、単純に補助金を出してほしいというわけでもないんです。何でもそうですけど、補助金につきましては出せばええというもんでもありませんので、その補助金がどのように使われて、市民や市にとってどのようなプラス効果があるんかということを検証してい

かないかんと思うんです。そんな中で本当に市民みんなに盛り上がるようなものについては補助金を出していったり協力していくということをしてぜひともお願いいたしたいし、将来的に、だんじり祭りは他市からもたくさんの方が来られます。やっちゃんにつきましても、大阪からも来られますし、踊り連の中にも大阪の方もありますし、五條市とか和歌山の方もありますし、だんじりにつきましては泉南のほうからも見に来られますし、岸和田からも来られます。大阪の河内長野、あの辺からも来られますし、大変橋本市のPRというか、橋本市は元気のあるまちやなというイメージづくりには大変すばらしいと思いますんで、ぜひとも何らかの形で全面的なバックアップをお願いいたしたいし、市長はやっちゃんに感動していただいていますんで、やっちゃんに行かれて、これはほっとかれへんなどという感じを持っておられると思いますんで、その辺でもう一度市長のご答弁を聞きたいんですが。

○議長（上田順康君）市長。

〔市長（木下善之君）登壇〕

○市長（木下善之君）秋祭りはだんじり協議会でいろいろ取り組んでいただいて、もうなべんとなしに交通安全を中心に、そしてまた市民総参加の祭りとして盛り上げていただくことは、本当にうれしく思っています。ぜひとも成功するように、恐らく紀の川、吉野川流域でこれだけのたんじりが新調されたり、みんな取り組んでいただいているのは、恐らく橋本市であろうと思っておるわけですが、岸和田のだんじりに次いで、次は橋本市のだんじりやということで、大勢のお客さん、観客が見ていただければ非常にありがたいと思っておるわけですが。

さて、やっちゃん祭でございますが、これは若い皆さんが中心になっていただいて、やっちゃん祭振興会ということでございますか、

お取り組みをいただいておりますので、私ももう初めからというか、七、八回もずっと行かせていただいておりますが、内容はよくわかっておるわけですが、初めの間は5連から7連ぐらいでしたかな。初めはちょっと少ないな、こんなもんかなと思ったんですが、なかなか今年なんかは、これはもう大したもんで23連、そして和歌山市、大阪府、奈良県から11連、そして伊都・橋本で12連ですか、12組というんですか、それだけ出てしたら、これは世界一まではいかんにしても大したもんやなど私は思ってね。ほんで議長と市会議員の多くの方も参加いただいて、お目にかかったのは、岩田議員、辻本議員、上田議長と、そしてほかの方も高野口の駅前通りでとか伏原の松源、そして三石台、そして橋本の東家の松源、ここらほだいたい5連から7連ほどが踊っていたくような仕組みになっておって、橋本の駅前には3時からですよ。終わるのは8時半ですわ。夕飯抜きですと私らは見てましたけども、上田議長は、これは3,000円以上の値打ちがありますなと言いましたな。ほんで私も、そらそうですなというて申し上げたんですが、それは大したもんです。一番小さい方は4歳半か5歳の方が鉢巻き締めて衣装をそろえてね。皆さんも見られたさかい詳しい言わんでもいいと思うんですが、ほだいたい20代から40代、中には50代の方も若うつくって立派に踊られておる。すばらしい。本当にあれを見ましたら百馬力出るぐらい元気。そして人づくり。人も元気、まちも元気。あれが橋本市内をくまなく歩いていただけたら大分ええのになど。真夏で暑うございましたから、それはもう体がもたんと思うんです。

さて、市の考え方としては、なかなか財政厳しい折から非常に心苦しいことになるのでございますけども、私は職員を中心に、もうお金がないんで、物でいくこと、品物という

か、人で大勢出てもうて、今度は人ばかり、橋本の駅前、この間は2,000人台ですか、3,000人ですか。今度は5,000人ぐらい、市の職員も大勢おりますんで、人を大勢出させていただいて、ひとつ面目を立てたいなという気持ちを持っておるわけですが、本当に内容の濃い、他の大阪なり奈良なり和歌山から来られるということ。この方は橋本で一服したりして晩におそおそ帰られるんですよ。それが帰ったらまた口コミでどんどんと広がっていただけるんで、誘客の面で非常に意義が大きいなと私は思っておりますので、これを本当にご苦労なさっております振興会の皆さんに心から感謝と御礼を申し上げておきたいと思っております。また、橋本市として、特別、市として今後どうしていくかということも、今後の課題に若干させていただけたらと。それまでの間は人でひとつ賄わせていただくように、私も市民にも精いっぱいPRしてまいりたいと思っておりますので、よろしく願いをいたしたいと思っております。

あと補足が必要あったら、ひとつ理事のほうから補足をいただきたいと思います。

○議長（上田順康君）理事。

○理事（塚本 基君）市長の後でもう何も言うことはございませんですけども、先ほど市長が言われましたみたいに、あしたにでも補助金の中身について一般質問がございますので、これをさらに補助金を増やすというふうなことになりますと、また行革担当の者からしますと非常に苦しい立場でございます。ただ、市長が言われましたみたいに、お金がないので人で賄いさせてもらうというふうなことでございますので、私も市長のご意向に沿うような形でさせていただきたいというふうに思います。

ただ、だんじりにつきましても、やっちゃんにつきましても、最終的にやっちゃんにつ

きましては全国的な広がりをもって進めていきたいというふうに聞かせていただいておりますので、直接最初から補助金ということになりますと、いろいろ議論もあろうかと思っておりますので、役所として一時的にでもできるような話、乗れるような話というか、協力できるような話がありましたら、そこら辺で話に乗せていただいたらなというふうに思っております。ただ、何分行革担当でございますので、補助金につきましては非常に苦勞しておりますので、そこら辺もご理解のほどよろしくお願ひしたいというふうに思います。

○議長（上田順康君）11番 辻本君。

○11番（辻本 勉君）市長と理事と大変ありがとうございました。人でこらえてくれということで大変不満足ですけども、人も物もお金も要りますんで、補助金も削るところは削って出すべきところは出していくという検証を十分していただきまして、市長が十分この秋祭りやちよんについてはご理解をいただいておりますので、そういうところには適正な補助金をつけていくというところ、要らないところは削っていくという思い切った市長の判断をぜひともお願ひいたしたいと思ひます。

ありがとうございました。これで終わります。

○議長（上田順康君）これをもって、11番 辻本君の一般質問は終わりました。